

取扱暗号資産の概要説明書

概要書更新年月日		2024年8月29日
	日本語の名称	カイア
	現地語の名称	Kaia
	呼称(日本語の名称と同じ場合は一表記)	-
	ティッカーコード(シンボル)	KAIA
	発行開始(年、月、日)	2024年8月29日
	時価総額(ドル基準、例: \$ 1,000,000)	\$1,006,124,483
	時価総額(円基準、例: ¥ 100,000,000)	¥145,415,171,544
	主な利用目的	送金、決済、スマートコントラクト
	利用制限の有無	なし
	海外流通の有無	あり
	国内流通の有無	あり
	店舗等の利用制限の有無	なし
	利用制限を行う者の属性	-
	利用制限の内容	-
	一般的な性格	分散型の価値保有・価値移転の台帳データ維持のための、暗号計算および価値記録を行う記録者への対価・代償として発行される暗号資産。 分散型アプリケーションが動作する実行環境の役割を果たす特徴を持つ。
【基礎情報】	法的性格(資金決済法第2条第14項第1号、第2号の別例: 第1号)	第1号
	2号の場合: 相互に交換可能な1号暗号資産の名称	-
	発行暗号資産に対する資産(支払準備資産)の有無および名称	なし
	発行者に対する保有者の支払請求権(買取請求権)	-
	支払請求(買取請求)による受渡資産	-
	発行者が保有者に付与するその他の権利	-
	発行者に対して保有者が負う義務	-
	価値の決定	保有者間の自由売買による。
	交換(売買)の制限	-
	価値移転、保有情報を記録する電子情報処理組織の形態	パブリック型ブロックチェーン
	保有・移転記録台帳の公開、非公開の別	公開
	保有・移転記録の秘匿性	公開鍵暗号の暗号化処理を施しデータを記録。
	利用者の真正性の確認	秘密鍵と公開鍵を用いた暗号化技術により、利用者本人が発信した移転データと特定し、記帳する。
	価値移転記録の信頼性確保の仕組み	Istanbul Byzantine Fault Tolerance (IBFT) IBFTでは、ConsensusNode (CN)と呼ばれる、ブロックの生成をするノードによって、トランザクションが承認・記録される。このCNは、Governance Councilのメンバーのみが運用できるノードである。CNの中から選ばれた1つのノードが新しいブロックを提案し、他のCNが検証を行う。問題が無ければブロックチェーンに反映される仕組みである。
	誕生時に技術的なベースとなったコインの有無とその名称(アルトコインのみ)	ETH
【取引単位・交換制限】	取引単位の呼称	KAIA
	保有・移転記録の最低単位	kei (1KAIA=1,000,000,000,000,000kei) or peb (1KAIA=1,000,000,000,000,000peb)
	交換可能な通貨又は暗号資産	全て可
	交換制限	-
	制限内容	-
	交換市場の有無	あり
【連動する資産の有無等】	価値が連動する資産等の有無	なし
	価値連動する資産等の名称	-
	価値連動する資産等の内容	-
	価値連動する資産との交換の可否	-
	価値連動する資産との交換比率	-
	価値連動する資産との交換条件	-
【付加価値】	その他の付加価値(サービス)の有無	あり
	付加価値(サービス)の内容	Kaiaネットワーク上でのスマートコントラクトの記録と実行
	過去3年間の付加価値(サービス)の提供状況	Kaiaネットワークの前身となるKlaytnネットワークは、2019年のメインネット開始以来、安定して稼働・提供が行われている

【発行状況】	発行者	あり
	発行主体の名称	Kaia Foundation
	発行主体の所在地	Abu Dhabi
	発行主体の属性等	非営利団体
	発行主体概要	KAIAブロックチェーンのプログラム開発・ネットワークの維持を目的としている団体
	発行暗号資産の信用力に関する説明	多数の記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組み。 ブロックチェーンによる保有・移転管理台帳による記録管理と重層化した暗号化技術による記録の保全能力。 保有・移転管理台帳の公開。 暗号化技術による保有者個人情報の秘匿性。
	発行方法	プログラムによる自動発行。 ブロックの生成毎に、記録者(バリデータ)に対してKAIAが発行されている。
	発行可能数	上限なし
	発行可能数の変更可否	-
	変更方法	-
	変更の制約条件	-
	発行済み数量	約5,768,000,000 KAIA
	今後の発行予定または発行条件	プログラムによる自動発行
	過去3年間の発行状況	なし
	過去3年間の発行理由	なし
	過去3年間の償却状況	なし
	過去3年間の償却理由	なし
	発行者の行う発行業務に対する監査の有無	なし
	監査を実施する者の氏名又は名称	-
直近時点で行われた監査年月日	-	
直近時点における監査結果	-	
【価値移転記録台帳に係る技術】	ブロックチェーン技術の利用の有無	あり
	ブロックチェーンの形式	パブリック型ブロックチェーン
	ブロックチェーン技術を利用しない場合には、その名称	-
	利用するブロックチェーン技術以外の技術の内容	-
	価値移転認証の仕組み	台帳形式 価値移転認証を求める暗号データを記録者が解読し、利用者および移転内容の真正性を確認して価値移転記録台帳の記録を確定する。
	価値記録公開/非公開の別	公開
	保有者個人データの秘匿性の有無	あり
	秘匿化の方法	公開鍵と秘密鍵による暗号化
価値移転ネットワークの信頼性に関する説明	オープンネットワークの脆弱性に対し、暗号により連鎖する台帳群(ブロックチェーン)および記録者による多数決をもって移転記録が認証される仕組みを用い、多数の記録者のネットワークへの参加を得ることによって、データ改竄の動機を排除し、信頼性を確保する。	
【価値移転の記録者】	記録者の数	36 参照元: https://square.klaytn.foundation/GC?tab=LIST
	記録者の分布状況	アジアを中心とした複数の企業により構成されている
	記録者の主な属性	KAIA Governance Councilに参加しているメンバー
	記録の修正方法	確定されたブロックの記録は修正不可能
	記録者の信用力に関する説明	記録者になるには最低5,000,000KAIAをステーキングする必要がある。報酬を得るために正しい記録を行う動機があり、その結果、現状はシステムが正常に作動している。
	価値移転の管理状況に対する監査の有無	なし
	監査を実施する者の氏名又は名称	-
	直近時点で行われた監査年月日	-
	その監査結果	-
	(統括者に関する情報)	
	記録者の統括者の有無	なし
	統括者の名称	-
	統括者の所在地	-
統括者の属性	-	
統括者の概要	-	

【暗号資産に内在するリスク】	価値移転ネットワークの脆弱性に関する特記事項	悪意ある多数の記録者が結託し、記録台帳を改ざんすることができる。しかし、記録者は5,000,000KAIAをステーキングしなければならないため、改ざんにより価値毀損を考慮すると経済合理性の観点から発生の可能性は低いと言える。
	保有情報暗号化技術の脆弱性に関する特記事項	-
	発行者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	なし
	価値移転記録者の破たんによる価値喪失の可能性に関する特記事項	-
	移転の記録が遅延する可能性に関する特記事項	複数の記録者のネットワーク機能が失われた場合や、処理可能なトランザクションを上回る量の取引がブロックチェーン上で発生した場合に遅延する可能性がある。
	プログラムの不具合によるリスク等に関する特記事項	他の暗号資産同様、ブロックチェーン上にデプロイされたコントラクトコードに未発見の脆弱性が存在した場合、悪意ある攻撃者により不正な取引が発生するリスクがある。
	過去に発生したプログラムの不具合の発生状況に関する特記事項	2021年11月にブロック生成の遅延が生じる不具合が発生したが、即座に原因の分析がなされ、翌日には修正プログラムの実行がなされている。同様の問題の再発も見られないことから、取扱い上の問題はないと評価している。
	非互換性のアップデート(ハードフォーク)の状況	なし
	今後の非互換性アップデート予定	-
正常な稼働に影響を与えたサイバー攻撃の履歴	-	
【流通状況】	価格データの出所	出所: Zaif Orderbook trading URL: https://zaif.jp/sp/trade/klay_jpy
	1取引単位当たり計算単価(ドル基準、例: \$ 1,000,000)	\$0.1733
	1取引単位当たり計算単価(円基準、例: ¥ 100,000,000)	¥25.0436
	ドル/円計算レート 2024年8月29日基準	144.53
	四半期取引数量(協会加盟会員合計、現物、単位は百万円)	2024年4月～6月 ¥ 218,559(百万円) 出所: CoinMarketCap URL: https://coinmarketcap.com/ja/currencies/klaytn/historical-data/
備考	2024年8月29日ブロックチェーンKlaytnとFinschiaが統合し、新たな統合ブロックチェーンKaiaが誕生し、暗号資産KLAY(クレイ)とFNSEA(フィンシア)が統合され、新しい暗号資産KAIA(カエア)に移行。	